

## 感情動詞におけるニ格とデ格の交替について

張麗 (大東文化大学)

### Alternation of Complements Ending in NI and DE in Emotion Verbs

Zhang Li(Daito Bunka University)

#### 1. はじめに

格助詞の交替現象は、学習者にとっても悩みの種で、これまでも誤用例の分析などでも頻繁にとりあげられてきた。しかし、その根本的なメカニズムの解明にまでは至っていない。ニ格とデ格の交替は錯綜した現象がみられることから、統一的な説明が困難だからである。使用制限、使用基準をめぐっては、前接の名詞成分の特徴を視野に入れる必要がある。本研究では感情動詞（感性動詞、情態動詞ともいう）に前接する格助詞の異同について、交替現象に注目しながら考察を進めることにする。感情動詞に注目したのは、感情形容詞にも共通する心理的要素があり、交替現象が見えやすいという背景から、また、使用頻度も高いことから、考察の対象とした。ここで、感情動詞の定義を筆者なりに述べておくと、人間の心理、感情にかかわる動詞としてとらえ、思考動詞などは対象外とする。

#### 2. 先行研究

##### 2.1 ニ格・デ格についての先行研究

国語学、日本語学からニ格・デ格の分類について、国立国語研究所（1951）、言語学研究会（1983）、益岡・田窪（1987）が挙げられる。第二言語習得から、迫田（1998）などの研究がある。認知言語学から、山梨（1995）、菅井（1997）（2000）、森山（2005）が挙げられる。

##### 2.2 ニ格、デ格の交替についての先行研究

格の交替現象が起こるデ格とニ格を中心とする先行研究は川野（2012）の壁塗り構文についての研究である。

ニ格をとる感情動詞について、先行研究では「ニ」と「デ」の言い換えができる動詞と「ニ」と「デ」の言い換えができない動詞があると指摘している。言語学研究会（1983）では、「ほれる」「あこがれる」、三原（2000）では、「呆れる」「飽きる」などが、「ニ」を「デ」に言い換えることができない動詞として挙げられている。

村上（2010）では感情動詞の補語を表す「ニ」がどのような場合に「デ」に言い換えることができるかについて、考察を行った。「驚く」「びっくりする」「おびえる」では、名詞句が「外的原因」の場合は、「デ」を使うことができる。「困る」「苦しむ」「悩む」「迷う」では、ニ格名詞句が無いことによって感情が動いたことを表す「欠乏」の場合は、「デ」を使うことができないが、「やけどのあとで悩んでいる」のように、名詞句の存在が感情を引き起こすことを表す「存在」の場合は、「デ」が使うことができることを述べた。

今までニ格、デ格についての研究は主に言語学においてニ格、デ格のそれぞれの分類を中心としている。第二言語習得の分野において場所を表すニ格とデ格の混同や、ニ格の過剰使用についての研究もなされている。ニ格とデ格の交替については、主に壁塗り構文に焦点を置いている。感情動詞を中心にしたニ格の研究は管見の限り少ない。先行研究では、

ニ格をとる感情動詞はニ格とデ格の言い換えが可能だと述べているが、実際の言語使用では、それぞれの使用率がどのぐらいなのかははっきり分からない。先行研究では七つの感情動詞について、総体的に考察したが、それぞれについての考察はまだ不十分だと考える。

### 3. 研究の目的

本研究では、「驚く」「おびえる」「苦しむ」「困る」「悩む」「びっくりする」「迷う」七つの代表的な感情動詞を取り上げ、以下の二つの問題を明らかにすることを目的とする。

- ① 七つの感情動詞それぞれニ格、デ格の使用率はどれぐらいなのか
- ② 感情動詞「悩む」におけるニ格とデ格の交替条件は何なのか。

### 4. 調査方法

本研究では、『現代書き言葉均衡コーパス (中納言)』を通して、短単位検索で「驚く」「怯える」「苦しむ」「困る」「悩む」「びっくりする」「迷う」について調べる。具体的な調査方法は以下のようなものである。

語彙素は「驚く」、前方共起 1 は[にでを]で検索する  
ほかの動詞も同じ方法で検索する。

### 5. 調査の結果

(表 1) 感情動詞におけるデ格とニ格の使用率

感情動詞	デ	ニ
驚く (使用率%)	8/500/1926 (1.6)	245/500/1926 (49.0)
怯える (使用率%)	14/469 (3.0)	330/469 (70.4)
苦しむ (使用率%)	64/500/1256 (12.8)	311/500/1256 (62.2)
困る (使用率%)	57/500/1834 (11.4)	203/500/1834 (40.6)
悩む (使用率%)	123/500/1966 (24.6)	170/500/1966 (34.0)
びっくり (使用率%)	34/778 (4.4)	182/778 (23.4)
迷う (使用率%)	67/500/825 (13.4)	273/500/825 (54.6)

「驚く」が 1926 例ヒットし、その中の 500 件が表示された。「名詞+ニ+驚く」は 245 例で、使用率は 49%で、「名詞+デ+驚く」は 8 例あり、使用率は 1.6%である。

「怯える」が 469 例ヒットした。「名詞+ニ+怯える」は 330 例で、使用率は 70.4%で、「名詞+デ+怯える」は 14 例あり、使用率は 3.0%である。

「苦しむ」が 1256 例ヒットし、その中の 500 件が表示された。「名詞+ニ+苦しむ」は 311 例で、使用率は 62.2%で、「名詞+デ+苦しむ」は 64 例あり、使用率は 12.8%である。

「困る」が 1834 例ヒットし、その中の 500 件が表示された。「名詞+ニ+困る」は 203 例で、使用率は 40.6%で、「名詞+デ+困る」は 57 例あり、使用率は 11.4%である。

「悩む」が 1966 例ヒットし、その中の 500 件が表示された。「名詞+ニ+悩む」は 170 例で、使用率は 34.0%で、「名詞+デ+悩む」は 123 例あり、使用率は 24.6%である。

「びっくり」が 778 例ヒットした。「名詞+ニ+びっくり」は 182 例で、使用率は 23.4%で、「名詞+デ+びっくり」は 34 例あり、使用率は 4.4%である。

「迷う」が 825 例ヒットし、その中の 500 件が表示された。「名詞+ニ+迷う」は 273 例で、使用率は 54.6%で、「名詞+デ+迷う」は 67 例あり、使用率は 13.4%である。

## 6. 考察

表 1 から分かるように、七つの感情動詞の中で、デ格の使用率が一番高いのは「悩む」であり、デ格の使用率は 24.6%である。本研究では「悩む」に注目して、デ格とニ格の交替条件について考察する。前接の名詞の種類に焦点を置き、考察する。名詞には普通名詞と抽象名詞に分けている。抽象名詞には以下の四つのパターンがある。

A パターン人間の生活に関する類

B パターン変化を表す類、

C パターン対立関係・行為・事件などを表す類

D パターン感情などに関する類がある。

### 6.1 前接の名詞が A パターン人間の生活に関する類の場合

日常生活を表す名詞の抽象度が低く、デ格しか使えず、ニ格とデ格の交替が難しい。

(1) Au の機種で悩んでいるんですけど… (Yahoo!知恵袋 2005)

(2) バックの色で悩んでいます。 (Yahoo!知恵袋 2005)

(3) 十一月挙式予定なのですが引き出物で悩んでいます。 (Yahoo!知恵袋 2005)

(4) ヘアスタイルで悩んでいます。 (Yahoo!知恵袋 2005)

同じ人間の生活を描く名詞が、少し抽象度が高くなるにつれ、デ格とニ格の交替ができるようになった。

(5a) 友情や恋、進路などで悩み傷つく子どもたちを、そっと見守るクロ。

(『サライ』小学館 2004)

(5b) 進路に悩んで、私は大学受験のため倉レの寮を出て…

(中元輝夫『雑草の記』光陽出版社 2002)

(6a) 子育てで悩んでいます。

(Yahoo!知恵袋 2005)

(6b) 子育てに悩む親に対して情報提供をしたり…

(衣川光正『ライブ解説職務論文文例集』公人社 2003)

前接の名詞は病気に関する類の場合、デ格とニ格の交替ができる。

(7a) こんな症状で悩んでいる人いませんか。 (Yahoo!知恵袋 2005)

(7b) 戦争の悲惨さから夢がみられなくなる症状に悩む。

(福本修ほか編『精神医学の名著 50』平凡社 2003)

(8a) 胃腸の丈夫な人に肩こりで悩む人はあまりいません。

(王進利『中国式目・肩・腰のツボ』大泉書店 2002)

(8b) そして、頭痛もちになったり、肩こりに悩む。

(西田達弘ほか『鼻はこれで直せる』1980)

前接の名詞は病気に関する類では、ニ格を取る用例は以下のようなものである。

アレルギーに、アレルギー疾患に、下痢に、高次脳機能障害に、ひざなどの痛み、慢性病に、胃病に、便秘に、不妊症に、鬱病に、難症・難病に、大変な禅病に、更年期障害に慢性疾患に、下腹部痛に、円形脱毛症に、冷え性に、腰痛に、生理痛に、不眠に、肥満に、

薄毛に、髪の色に、夜泣きに、家庭内暴力に、船酔いになど。

デ格を取る用例は以下のようなものである。

にきびで、早期の白髪で、薄毛で、毛むくじゃら、手の爪が巻き爪で、同じ症状で、痴呆症で、対人恐怖症で、便秘で、痔で、うつ病状で、アレルギー症状で、摂食障害で、皮膚欠損で、胃下垂でなど

以上 A パターンのような、日常生活を描く抽象度の低い名詞の場合、デ格しか使えなく、デ格とニ格の交替が難しいが、人間の生活を表す名詞や病名などの固有名詞は相対的に抽象度が高くなり、デ格とニ格の交替ができるようになった。

## 6.2 前接の名詞が B パターン変化を表す場合

名詞の抽象度が高いため、ニ格しか使えなく、ニ格とデ格の交替が難しい。

### 関係

- (9) 対象＝夫婦関係に悩む女性各日二十人[抽選]  
(『市政だより青葉区版』宮城県仙台市青葉区 2008)
- (10) 上司や同僚との人間関係に悩んでいる人もいるでしょう。  
(上原泰次『日々、夢に向かって邁進!』中央通信社 2003)
- (11) 家族がネックになったり、家族との関係に悩んだり…  
(東京都豊島区立男女平等推進センター編『男が語る一家族・家庭』1994)
- (12) 人に接触する機会が多くて対人関係に悩む職業の方やセールスマンに多い傾向があります。  
(高野正博『大腸の病気』保健同人社 2002)

### 不足・欠乏

- (13) 現在百九十 MB の RAN でリソース不足に悩んでいます。 (Yahoo!知恵袋 2005)
- (14) 有効需要不足に悩んでいた日本経済にとって…  
(高橋乗宣『「経済白書」で読む奇跡の 50 年』1995)
- (15) 急速な少子化の進展で研究開発人材の不足に悩むみんなが…  
(『au・au』マガジンハウス 2003)
- (16) 住宅不足に悩む庶民へ住宅をという名目をかかげて、東知事の下で発足した。  
(伊東光晴『現代経済の変貌』岩波書店 1997)
- (17) 急速な少子化の進展で研究開発人材の不足に悩むのは確実。  
(高藤康浩『勝つ工場』日本経済新聞社 2005)
- (18) イタリアでも税率を下げるくらいなのだが、歳入不足に悩むイギリス政府にとって  
(出版太郎『朱筆』みすず書房 1990)
- (19) 私たちが運動を進める過程で、同じようにマンションの瑕疵・欠陥に悩んでおられる居住者の方がたくさん居られることも知りました。  
(相羽宏紀『欠陥マンション改善の戦い』あけび書房 2000)
- (20) 曾て、塩分の欠乏に悩んで…  
(井上靖ほか編『昭和文学全集』小学館 1989)

### 被害

- (21) 知的財産権侵害に悩む各種業界団体らにより設立された任意団体。  
(警察庁『警察白書』行政 2003)
- (22) 空き巣の被害に悩む地域の解決策… (『Breath』ソニー・マガジズ 2003)

### 経済に関すること

- (23) 千九百七十年代には財政赤字、貿易赤字、インフレーションに悩んだ。

(風早正宏『ゼミナール経営管理入門』日本経済新聞社 2004)

(24) 各県ともいま地方活性化に悩んでいるが…

(松谷みよ子『現代民話考』立風書房 1994)

(25) 円高や原材料価格の高騰に悩んでいるのは、自動車業界だけではない。

(Yahoo!ブログ 2008)

### 過疎

(26) 過疎に悩む山村においては、林業が活性化することは重要ではあるが…

(西野寿章『山村地域開発論』原書房 2004)

### 対人関係

(27) 家庭の不和になやまなければならない自らの宿命を転換することです。

(池田大作『新・人間革命』聖教新聞社 1998)

### 存在

(28) 怪物自身も、知性をもつがゆえに自分自身の存在に悩み、苦しむ。

(カレル・チャペック著小林恭二ほか『山椒魚戦争』1994)

### 矛盾、ジレンマ

(29) いつもそのジレンマに悩んで押し売りの前で首をひねるのだが…

(藤沢周平『竹光始末』新潮社 2002)

### 6.3 前接の名詞はCパターン対立関係、行為、事件を表す類

名詞の抽象度が高いことから、二格しか使えず、二格とデ格の交替が難しい。

(30) もともとこの制度は、地域の迷惑行為に悩む住民が…

(山口二郎『ブレア時代のイギリス』岩波書店 2005)

### 6.4 前接の名詞はDパターン心理、感情、感覚に関する類

同じく名詞の抽象度が高いため、二格とデ格の交替が難しい。

(31) 好きだから不安になる彼の本心に悩むあなたに5つのメッセージ…

(近藤裕『「運命の人」に出会う25のレッスン』2001)

(32) 人は深い孤独に悩む。

(吉村英夫ほか『ほろっと本音キラッと青春』アールズ出版 2002)

(33) 仕事全体が見えぬとき、無力感に悩み…

(松山巖『手の孤独、手の力』中央公論新社 2001)

(34) 人は自分の非行を誰一人知る者がいなくても罪の意識に悩む。

(長野晃子『日本人はなぜいつも「申し訳ない」と思うのか』草思社 2003)

### 6.5 名詞の抽象度が高いが、二格とデ格と交替ができる場合

#### 問題

(35) 子供の非行、不良行為その他の問題で悩む保護者等から相談を受けて…

(『青少年白書』総務庁青少年対策本部 大蔵省印刷局)

(36) 深刻なごみ問題に悩む私たちの時代に…

(コリーヌ・ブレ『山猫の愛のように』読売新聞社 1997)

#### ストレス

(37) 思い通りにいかないというストレスで悩んでいるときは頭が空めぐりしたり、血液の循環が悪くなったりします。

(須藤和廣『めざせ！健康美容師』知道出版 2004)

(38) 健康な人がストレスに悩む場合にもきわめて有効なことがわかっています。

(関谷透『ストレス・ウォーズ』現代書林 1992)

## 不信

(39) 男性不信で悩んでいます。 (Yahoo!知恵袋 2005)

(40) 不信に悩むものは傷つき狂った動物のように…  
(吉田秀和『吉田秀和全集』白水社 2004)

抽象度の高い名詞が普通二格で表す。しかし、問題、ストレス、不信のような名詞の抽象度が高いが、二格だけではなく、デ格を使う用例もあった。それは二格とデ格の交替ができるといえるだろう。

## 7. まとめと今後の課題

本研究では、名詞の抽象度の観点から、感情動詞における二格とデ格の交替について考察した。感情動詞に接続する二格は場合によって、デ格と交替できる。本研究は感情動詞「悩む」について、考察した結果、日常生活を描く抽象度の低い名詞と接続する場合、デ格しか使えなく、二格が使いにくく、二格とデ格の交替が難しいということが分かった。もう少し抽象度が高くなった人間の生活を表す名詞や病名を表す名詞の場合、二格とデ格の交替が可能だと考える。抽象度が高い名詞と接続する場合、デ格の使用が限られている。二格とデ格の交替が不可能という結論が得られた。しかし、一見抽象度が高い名詞でも、デ格の使用も可能の場合があるため、抽象度が高い名詞にはデ格が使えないとは言い切れないと思われる。二格とデ格の交替についての研究を深めたいなら、名詞の抽象度についての研究もさらに深まる必要がある。それを今後の課題とする。

## 参考文献

- 言語学研究会 (1983) 『日本語文法・連語論』 むぎ書房
- 川野靖子 (2012) 「現代日本語の動詞「詰める」「覆う」の分析—格体制の交替の観点から—」『埼玉大学紀要 (教養学部) 第48巻第2号』
- 国立国語研究所報告 3 (1951) 『現代語の助詞・助動詞—用法と実例—』 秀英出版 pp135-151
- 迫田久美子 (1998) 「誤用を生み出す学習者のストラテジー場所を表す格助詞「に」と「で」の使い分け—」『平成10年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp128-134
- 菅井三実 (1997) 「格助詞「で」の意味特性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集 文学43』 pp23-40
- 菅井三実 (2000) 「格助詞「に」の意味特性に関する覚書」『兵庫教育大学研究紀要 第2分冊 言語系教育・社会系教育・芸術系教育20』 pp13-24
- 張善実 (2008) 「二格とヲ格の使い分けについて」日本語教育学講座研究会
- 益岡隆志、田窪行則 (1987) 『格助詞 日本語文法 セルフ・マスターシリーズ3』 くろしお出版 pp4-5
- 三原健一 (2000) 「日本語心理動詞の適切な扱いに向けて」『日本語科学』 8
- 村上佳恵 (2010) 「感情動詞の補語についての一考察—「ニ」と「デ」について—」『学習院大学国語国文学会誌』
- 森山新 (2005) 『認知言語学的観点を取り入れた格助詞の意味のネットワーク構造解明とその習得過程 (平成14年度～平成16年度科学研究費補助金研究 基盤研究 (C) (2) 課題番号14510615 研究代表者: 森山新) 成果報告書』
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』 ひつじ書房
- 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』